



～第4回『がん支えあいの日』記念フォーラムを開催しました～

NPO 法人がんリボンズ主催『がん支えあいの日』記念フォーラムを、6月16日(土)に東京・虎ノ門のニッショーホールにて開催しました。今年のフォーラムは【がんと「暮らす」「働く」】をテーマにした二部構成で、第一部は“がん支えあいセミナー”として、順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授でNPO 法人がん哲学外来理事長の樋野興夫さんをお迎えし、「がん哲学外来 -2つの法則-」をご講演いただきました。

第二部は“がん支えあいトーク”。江口研二さん(帝京大学腫瘍内科教授、当NPO 委員)のご講演「今後のがん医療が目指すべきもの-地域で支えあう力とは-」に続き、「暮らす・働くを支える、がん治療の今」コーナーでは、吉野孝之さん(国立がん研究センター東病院消化管腫瘍科消化管内科医長、当NPO 委員)から「大腸がんの治療を例に」、中村清吾さん(昭和大学医学部乳腺外科教授、昭和大学病院ブレストセンター長、当NPO 理事)から「乳がんの治療を例に」をご講演いただきました。

パネルディスカッション「がんと暮らす・働く ための、準備は整いましたか？」ではがんリボンズが作成した『「がんと働く」リワークノート』(がん治療をしながら働く方のための自己管理ノート)をもとに、自分らしく暮らし、働くための、心と体の整え方について考えました。浅野史郎さん(慶應義塾大学総合政策学部教授、元厚生労働省、前宮城県知事)、荒木葉子さん(荒木労働衛生コンサルタント事務所所長、産業医、当NPO 理事、「がんと働く」リワークノート編集委員)、石田正則さん(株)パナソニック取締役常務執行役員・営業総本部)、中村清吾さん、鎗野りかさん(財田附興風会北野病院副看護部長、がん診療連携相談支援センター副センター長)といったパネリストが、患者さん、企業、医療、それぞれの立場の視点から「がん治療」と「仕事」の両立についてディスカッションしました。



ご著書にサインをする浅野氏

浅野さんは、現在治療中の白血病(ATL)についても、ユーモアも交えながらお話しくださいました。また、イベント後は、展示ブースで販売したご著書「運命を生きる」(発行/岩波書店)に急遽サインをしてくださるなど会場をわかせました。

プログラムの締めくくりは、「がん支えあいシンボルソングーあなたが大切だから」をNPO のメンバー、パネリスト、参加者全員で大合唱。プロのギター演奏と会場からの飛び入り参加もあり、皆さんの歌声と笑顔がフィナーレを飾りました。



ギター伴奏の様子



「あなたが大切だから」合唱(ステージの様子)



全国のリボンズハウスの活動報告

各地のリボンズハウスで開催された「がん支えあいの日」応援イベントの一部をご紹介します。

【十和田市立中央病院】

出囃子の幕開けで始まる本格的な落語会、全日本社会人落語協会副会長の樋口強氏による「いのちの落語・講演会 “生きてるだけで金メダル”」を6月16日(土)に院内さわらび会館にて開催しました。小細胞肺癌を乗り越えた樋口氏に、生きる喜びやいのちの大切さを笑いのにのせて楽しく語っていただきました。また、普通の生活をするために“自分のことは自分で決める”という樋口氏の力強い言葉に多くの方が共感しました。



「いのちの落語」の様子

【京都医療センター】

6月20日(水)、「アロマハンドマッサージ」「がん治療中の頭皮ケア」、「コンサート」と、盛り沢山のイベントを開催。コンサートでは、京都橘大学吹奏楽部、箏曲部による優美な演奏と、同大学京炎！そでふうれ部(京都をテーマにしたダンスパフォーマンス)の力強い演目に続き、京都医療センターひまわり保育園の園児による歌や京都看護助産学校の学生による合唱やハンドベルの音色を楽しみました。コンサートの締めくくり「川の流れのように」の大合唱では、会場の一体感に多くの方が感動し、「支えあい」を共有できるイベントとなりました。

京炎！そでふうれ部のパフォーマンスの様子



季節の健康レシピ

このコーナーでは、季節に合った簡単で体に優しいレシピをご紹介します。料理研究家で、当NPOの委員でもある村岡奈弥さんの美味しい簡単レシピをご紹介します。

●●●トマト卵炒め●●●

【材料】 2人分

卵 2個、 トマト 中1個 (6等分にくし切りにし、更に横半分に切る)
三つ葉 4本 (2~3cm長さに切る)、牛乳 大さじ2、天然塩、エクストラバージンオリーブオイル

【作り方】

1. 卵を溶き、塩 少々、牛乳を加える。
2. フライパンに、オリーブオイルを熱し、1を流し入れ、4~5回大きく木べらで混ぜ、取り出す。
3. 再びフライパンにオリーブオイルを熱し、塩を二つまみ加え、トマトを加えサッと炒め、1を加え合わせる。
4. 3をお皿に盛り、三つ葉を載せる。



<村岡奈弥さんプロフィール> ホームページは、<http://www.cuisine-naya.com/>

辻クッキングスクール勤務後、辻調グループフランス校「シャトー・ド・レクレール」に留学し、フランス料理を学ぶ。帰国後、料理教室「エミーズ」のチーフ・コーディネーターを務め、その間、フランスの三ツ星レストラン「ミッシェル・ブラス」で修行。料理教室を主宰するほか、「中医薬膳師」「国際中醫師」の資格を取得し、現在、日本中医食養学会常任理事、国立北京中医薬大学日本校の講師を務める。



ブックレビュー

■図書館 館長おすすめの1冊

キャンサーリボンズでは、各地の図書館と連携して情報発信する活動を進めています。その活動の一環として、川崎市立麻生図書館 館長 池原 真さんに書籍の紹介を連載していただいています。

書名：『ある日、妻が乳がんになった』

—夫として、言語聴覚士として、調理師として、僕にできたこと—

著者：櫻井正太郎／著（エクスナレッジ） 1,575 円（税込）

‘08年8月のある日、著者の妻に乳がんが告げられます。結婚4年目、3歳の一人娘、引っ越したばかりでまだ荷を解かない段ボールが占拠する部屋。突然の宣告、そして闘病の間、治療のことだけでなく、お子さんや、家族のことですっと心を悩ませ続けてきただろうことが目に浮かぶようです。

この本は、そうした妻を支える、支えなければならない家族、夫の立場から書かれています。つらい治療の間には、夫婦間で売り言葉に買い言葉のような行き違う場面が何度もあったでしょう。そうした時も、妻にかけた言葉をふりかえり、本当はどのような言葉がよかったのかを、こまかな観察とともに書いています。



著者は言語聴覚士。さまざまなことから話すことに障害を持つ人々に、言葉を取り戻すリハビリをほどこす仕事をしています。そうした著者ならではのたくさんの気づきがあります。でも、この本の素晴らしいのは、“いっしょに未来を見たい”という前向きな気持ち、ささえる言葉だと思います。ぜひお読みください。

*長い間、リボンズハウス通信に書評をお寄せくださった川崎市立麻生図書館 館長 池原真さんが
今月お亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。長い間ありがとうございました。

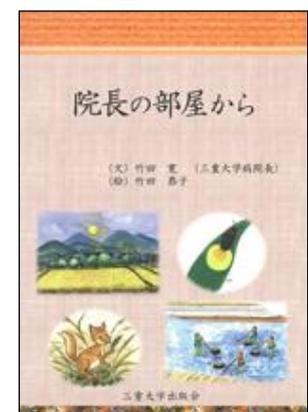
■リボンズハウスで話題の本

三重大学病院リボンズハウスで話題の本をご紹介します。

書名：『院長の部屋から』（三重大学出版）

著者：竹田寛／著（三重大学出版）1,260 円(税込)

三重大学病院 院長 竹田寛先生が、大学病院のホームページと病院玄関に掲載を続けてこられた随想が、「院長の部屋」という随想集として出版されました。竹田先生の随筆と、四季折々に咲く草花の写真やイラストが、ほのぼのと温かく懐かしさを覚えます。素敵な挿絵は、奥様の竹田恭子さんによるものです。



三重県内の書店・学生協にて販売中。お問い合わせは三重大学出版（059-232-1356）。三重大学病院のホームページ 院長コラム「続・院長の部屋」コーナー<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/doctorblog/>でもご覧いただけます。ぜひ、一度ご覧ください。



各地のリボンズハウスからのお知らせ

【大阪警察病院】～16番目のリボンズハウスができました～

がん患者さんやご家族のための図書コーナー「リボンズハウス」を7月2日(月)にオープンしました。がん関連の本やインターネットの閲覧、ウィッグや帽子の展示、がん化学療法看護認定看護師や緩和ケア認定看護師による相談も行っています。



オープン当日のテープカットの様子

【聖マリアンナしんゆりリボンズハウス】

聖マリアンナしんゆりリボンズハウスでは、ホームページ(<http://shinyuri-ribbonz.com>)を開設しました。オリジナルキャラクター「ブランちゃん」が地域に密着した活動を紹介していきます。6月23日(土)に開催した「がん支えあいの日」応援イベントなどもアップしています。ぜひ、ご覧下さい。



ブランちゃん

キャンサーリボンズからのお知らせ

～がん患者さんにご家族に向けた朗読CD

「あなたには、明日、生きる意味がある」を発売します～

がん患者さんにご家族が生きる意味を考え、生きる希望や勇気につながるよう、各分野で活躍中の方々の温かなメッセージが込められた短編の文章を収録した朗読CDを制作しました。疲れている時は「耳から音声を聞きたい」という、多くの患者さんやご家族にぜひ聞いていただきたい1枚です。

朗読CD「あなたには、明日、生きる意味がある」

[収録時間63分 定価1,000円(税込)]

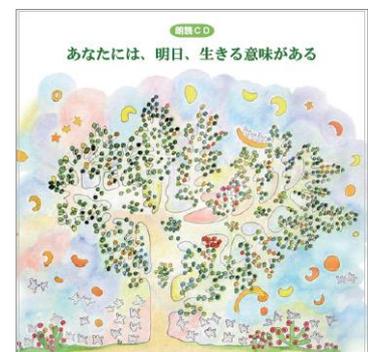
朗読 青木裕子(軽井沢朗読館館長)

企画・制作 NPO法人キャンサーリボンズ×軽井沢朗読館

朗読CDには、日野原重明(医師)、樋野興夫(医師)、堀文子(画家)、坂田明(サクソ奏者)、岡山慶子(当NPO副理事長)ほか6名のメッセージが収録されています(敬称略)。

CDのご購入については、webサイト「がん暮らしサポート/がん暮らし良品館」<http://ryohinkan.jp/>をご覧ください。

問い合わせ先は、がん暮らしサポート良品館(TEL 03-3560-2440 受付時間 9:30-13:00/14:00-17:30(土日祝日・年末年始除く))。なお、発売は7月下旬を予定しています。



リボンズハウスとは…

がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ、具体的な情報とケア体験を提供する場所です。医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者さんがより自分らしく少しでも快適な生活を送れるよう、サポートしていきます。また、広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し、支えあいを実践できる場になることを目的としています。各地域や施設の特性を活かしながら、立地に合ったソフトを展開しています。